

令和2年度第1回 愛媛県
地域年金事業運営調整会議
(ご意見及び課題への対応)



令和3年3月
松山東年金事務所

余 白

令和2年度第1回 愛媛県地域年金事業運営調整会議

	ご意見等	今後の対応・方針
令和2年度 取組結果 (年金セミナー事業)	(佐藤智秋 委員長) ●年金セミナーのアンケート調査に関連しての意見になります。 アンケート調査は調査対象の範囲が広く、また、回答者数が相当数になるため、かなり手間がかかったことと思います。アンケート調査の規模に比べて、報告が基本集計のみのため、年金事務所での有効活用、回答者への還元という点でもったいない感じがします。 下記のような利用はされているのでしょうか。すでにされているのであれば情報提供をお願いします。まだであれば、やってみられることをお勧めします。 1. 属性別(学校種、地域、性、年齢)の特徴・違いを調べる。 2. 1を使って、次回の年金セミナーの課題を抽出する。	●頂いたご意見1.2.につきましては、集計方法が全国共通で定められておりますが、非常に有益な方法ですので、機構本部へ情報提供の上、クロス集計や複数回答の表示方法等検討してまいります。 (参考) 年金セミナー実施後のアンケートの集計時には、(セミナーを受けてのご意見・ご感想)について取りまとめを行い、実施していただいた学校に送付しております。(参考としまして、直近の実施校分をP3～P15に掲載しております。) あわせて、年金事務所職員、地域年金推進員がアンケート内容(意見、感想欄)を1枚ずつ確認のうえ協議を行い、次回の年金セミナーが個々の学校に合った説明になるよう内容を調整しています。 意見、感想等につきましては資料が膨大なため、愛媛県地域年金事業運営調整会議の資料として報告しておりません。
令和2年度 取組結果 (年金セミナー事業)	(福原真司 委員) ●年金セミナーのアンケート集計結果についてですが、「詳しく説明して欲しい内容」として、対象が生徒、学生ということで「年金の破綻」や「保険料免除制度」に関心があるのは十分理解できますが、令和元年度の新居浜年金事務所の集計で「世代と世代の支えあい」の比率が高いことに興味を覚えました。もちろん重要なテーマですが、講師を務める地域年金推進員の方の話のポイントの置き方も影響するのでしょうか。	●年金セミナーの資料は5年金事務所ともほぼ同一な資料をもとに講義を実施しており、個々の学校により多少、説明する深さを変更しております。 新居浜年金事務所の集計誤りにより「世代と世代の支えあい」の比率が高くなっており、申し訳ございませんでした。(修正したものをP17～P23に掲載しておりますので、ご確認をお願いします。) 実際には他の4年金事務所と同様に、生徒の皆さんの次回にもっと説明して欲しい内容は「年金の破綻」と「保険料免除制度」になっております。 今後も生徒の皆さんの意見・感想を確認して、次回の年金セミナーが個々の学校に合った説明になるよう内容を調整しています。

令和2年度第1回 愛媛県地域年金事業運営調整会議

	ご意見等	今後の対応・方針
令和2年度 取組結果 (年金セミナー事業)	(高田純晴 委員) ●愛媛県内高等学校年金セミナー実施状況表について、宇和島事務所での実施が多く、松山東年金事務所の実施が少ないのは、どうしてでしょうか。 (福原眞司 委員) ●愛媛県内高等学校年金セミナー実施状況表を見ると、地域によって実施に大きな差があり、特に松山地域が顕著に少ないです。実施に関する「差」の理由は個々の学校側の都合なのでしょうか。	●宇和島年金事務所では平成27年より地域年金推進員（元高等学校の教頭先生）が委嘱され、松山西年金事務所も平成26年まで地域年金推進員（元高等学校の校長先生）が委嘱されていたため、管内では、地域年金推進員のお口添えにより、ほとんどの高等学校が年金セミナーを実施していただける状況となっています。 松山東年金事務所においても、毎年、管内すべての高等学校へ実施依頼の文書を送付し、電話や訪問により実施のお願いをすることにより、実施校が少しずつ増えてきている状況ですが、実施していただけない高等学校からは「課外授業の時間数が決まっており、総務省の詐欺商法の授業や税務署の税金の授業で埋まっている。」という理由で断られることが多くなっています。 一度、年金セミナーを実施していただくと、その意義を理解してもらえ、翌年以降も実施いただけていますので、今後も引き続き、アプローチを繰り返していきます。 令和3年10月（目途）より、年金セミナーのオンライン開催が可能となることも予定されていますので、その点も積極的にPRを行い、実施校が増加するよう取り組んでいきます。
令和3年度 事業計画 (年金委員活動支援事業)	(福原眞司 委員) ●職域型年金委員への情報提供ツール「ハナミズキ通信」が創刊され送付されています。A4版4ページ仕様で文字も少し大きめですので、情報量は限られてくると思いますが、委員間の横の繋がりはほとんど無いと思いますので、「月刊社会保険」や「社会保険えひめ」と補完し合いながら情報提供を続けていただければと思います。	●職域型年金委員向け情報誌「ハナミズキ通信」については四国地域独自の取組として令和2年11月に創刊されました。今後は年4回のペースで発行していきます。 内容についてはまだまだ十分なものではありませんが、年金委員の皆様がお勤め先で年金制度の周知や各種手続きの助言・相談が円滑に実施できるよう適時適切な情報を提供できるよう努めてまいりますので、お気付きの点がございましたらお知らせ願います。